

教師の  
腕前診断文 | 城ヶ崎滋雄 (千葉県船橋市立夏見台小学校)  
イラスト | 吉田朋子

今回のテーマ

「子育ての一助」となる  
学級通信を目指して

学級通信は、授業・休み時間・行事への子どもの取り組みを知らせたり、お知らせとして活用したりと、保護者との良好な関係を築くために発行します。

読み終えた学級通信を、「ゴミ箱に捨てる」「ファイルに綴じる」。保護者はどちらでしようか。せっかくなら、保存してもらいたいものです。

今回は、保護者が大事に保存したくなるような学級通信の書き方を紹介します。テーマは、「子育ての一助」です。

## 1 何のために書くのか

5月から子どもとのコミュニケーションを図るために個人面談の機会を設けています。空いている時間に別室で「ミニ・面談」をしています。その事を学級通信に紹介します。

## Q1 どのように書きますか。

- ①「面談をしています」という事実だけ紹介する。
- ②事実と教師の意図を合わせて紹介する。
- ③子育てにも応用できるように、「家庭での応用例」も書く。

事実の紹介の「①」では、一読し終わったら、テーブルの上にボンと置かれます。我が子が近くに居たら、「どんな話をしたの」「もうあなたの順番は終わったの」と聞く程度です。

事実だけでは、「学校ではそんなことをして

いるんだ。子どもの理解に努めているのね」という程度の関心具合です。

人は何らかの意図をもって行動を起こします。「②」のように教師の意図を紹介することにより、担任の思いや願いが伝わります。

どうして「ミニ・面談」をするのか。それは子どもたちとよい関係を作りたい、子どもの相談に乗る機会を作りたいという先生の積極的な働きかけだということを保護者は理解します。

また、「ミニ・面談」をすることで「いじめの予防や素早い対応をしてもらえる」「学級崩壊のような重大なトラブルからクラスを守ってもらえる」と保護者は安心します。居心地のよいクラス作りをしてもらっていると保護者は安堵します。

別室で「ミニ・面談」を始めた理由は、もう1つあります。

教師から見ると子どもは40人中の1人、大勢の中の1人です。しかし、子どもはそうではありません。「私の先生」「ぼくの先生」なのです。「先生、見て見て」と腕を引っ張ります。「先生、あのね……」と耳元で囁きます。子どもにとって先生は独占したい対象、「自分だけの先生」なのです。そこで、わずかな時間でもそんな思いに応えたいと思い、「ミニ・面談」を始めました。

「短いけど、5分間君だけとお話をしたいな」と伝え、タイマーを押しします。すると、子どもは時間を惜しむかのように自分から話題を提示してくれまます。人は制限されると、その時間を有意義に過ごそうとするからです。

場所を別室にするのも「自分だけの先生」気

分を満たしてもらったためです。別室という非日常的な空間が「特別」という空気を醸し出し、絆を強くします(セクハラ防止のため、ドアを開け、子どもは廊下側に座らせます)。子どもに「先生を独占できた」という安心感・満足感が生まれます。

このように、「ミニ・面談」は子どもを知るよい機会となるだけではなく、良好な人間関係作りに寄与しています。

行動の意図を書くことは重要ですが、それだけでは「先生は努力してくれている」と学校の情報を受け取るだけです。ファイルに保存して、読み返そうと思ってもらうにはもうひと工夫が必要です。

そこで、おすすめは「③」の「家庭での応用例」も書くです。

学校では独占したい対象は先生ですが、家庭なら「お母さん」「お父さん」です。

「ミニ・面談」で、「兄弟喧嘩をすると、『お兄ちゃんでしょう』とぼくが叱られる」「お姉ちゃんだから」といつも我慢させられる」とぼやく子どもがいました。

親にとって我が子は皆可愛いものですが、子どもにとっては「ぼくだけの親」なのです。「私だけを可愛がってほしい」のです。

特に、長子はそうです。「お兄ちゃんでしょう。お姉ちゃんでしょう」と下の兄弟に親を取られてしまいます。「ぼくだって甘えたいのに」と我慢させられていると思っています。

親が「弟が生まれるまではあなただけを可愛がっていたよ。だから、あなたに私たちの愛情を一番多く注いだのよ」と慰めても、子どもは

教師の腕前が試される、学級経営のひと工夫。

ベテラン先生によるケーススタディです。

こんな時、あなたならどうしますか？

教師の接し方の原点は子育てと同じです。それを示し、家庭での応用例を記します。そうすると、保護者は「そんなんだ」から「そうしてみよう」「それならできると」と、「一人っ子タイム」を実施できる機会を楽しみにします。

## 2 家庭での「一人っ子タイム」の取り方



納得できません。確かに弟や妹が生まれるまでは「一人っ子」として可愛がってもらった時期があったでしょうが、それは過去の話です。子どもにとって大事な時間は今です。同じように愛情を注いでほしいのです。できれば、少しだけ多く注いでほしいのです。この気持ちを満たすと子どもは安心して、親子のよい関係を築くことができます。そこで、「ミニ・面談」を応用した、「一人っ子タイム」を紹介します。

## Q2

どれを紹介しますか。

- ① 子どもと一緒に登校する。
- ② 子どもと一緒に映画を観に行く。
- ③ 子どもと一緒に夕食を作る。

①の「登校」は子どもの都合です。保護者が「一緒に登校しようね」と声をかけると、大喜びです。しかし、保護者は毎日それを続けられませんか。仕事で早出の時もあるでしょう。専業主婦の方も急な予定が入ります。保護者は「仕方がない」と思っても、子どもは「約束を破った」と理解してくれません。結局はぬか喜びとなり、子どもの不信感を招くだけです。さらに、一緒に登校していると友達から好奇の目で見られます。「小学生なのにまだお家の人と一緒に登校している。幼稚園児みたい」と冷やかされます。

また、登校している時の話題は今日のことです。今から起こる出来事なので、楽しく、明るい話題です。一日の励みにはなりますが、この話題なら保護者ではなく、友達でも十分です。「一人っ子タイム」では保護者でなければ出来ない話をするからこそ意義があります。

②の「映画」は楽しいひと時を過ごせます。この時も楽しい話題に終始します。楽しい思い出により一時的な心の安らぎを得られますが、安心の要素にはなりません。なぜならば、安心は不安に遭遇し、それに立ち向かい、解消することを得られるからです。

映画の鑑賞は非日常的な出来事です。「一人っ子タイム」は日常的にあるからこそ効果があり

ます。

③の「夕食作り」がいいでしょう。子どもは今日一日のことを話題にします。保護者は料理の手を休めるわけにはいかないもので、領きながら聞きます。子どもの方を見ることでできないので、話を聞く側に回らざるを得ません。これが良いのです。保護者の意見を述べる余裕がないからです。

話を聞いてもらったと感じる時は、相手よりもたくさん喋ったと思った時と、自分の意見を否定されなかった時です。子どもは話を聞いてもらい満足します。

距離感も大事な要素です。一緒に夕食を作ると肩を寄せ合うように並びます。近ければ近いほど親密さが増し、心が通い合います。

夕食を作る時間は最低でも20分は必要です。その時間、保護者を独り占めできます。「一人っ子タイム」を20分も取れるのです。

さらに、保護者の包丁さばきに驚きます。技量の高さを見て、「大人は素晴らしい」と尊敬の念を抱きます。

料理以外では、一緒にお風呂に入る、一緒に夕食の片付けをする、一緒に洗濯をし、それを干す、一緒にジョギング・ウォーキングをするなどがあります。

\* \* \*

学級通信で、学校で実践している活動を家庭に置き換えたらかままで紹介することによって、保護者は学級通信を育児書のように扱うようになり、大切に保管してもらえるようになるのです。